

T2K 東大の思ひで

情報基盤センター長・教授
石川 裕

2008年から運用開始した T2K 東大マシンの運用が終了しました。T2K プロジェクトは前センター長米澤明憲教授がセンター長に就任された 2006 年までにさかのぼります。2006 年初頭に情報基盤センターのスパコン運用に関する意見を求められ、この時、「シームレスリソース サービス - PC クラスタからグランドチャレンジコンピュータ向け計算資源サービス -」を提案しました。この骨格は、(1) 多様なニーズを受け付けるための Capacity Computing Facility、(2) グランドチャレンジのための Capability Computing Facility を PC クラスタで実現しようというものでした。最先端技術による PC クラスタ構築では、プロセッサや高速ネットワーク開発動向とセンター運用できるソフトウェアスタックの利用可能性、性能要求を満たせる構成が可能かどうかなどを調べていく必要があり、2006 年度には当時博士課程在学中だった松葉浩也氏(現日立製作所)を助教にむかえて東大情報基盤センターの体制を整えました。その後、筑波大と京大とともに T2K アライアンスを組んで仕様書策定を進めていきました。プロセッサ製品の遅れなど運用開始から安定化までにいろいろなことがありました。最大消費電力が 1MW に達すると見込まれるなか、多くのユーザに使われなかったらどうしようかという不安もありました。実際には予想以上のユーザに利用して頂くことができ、無事その役割を果たしたことを大変喜ばしく思っております。仕様策定、調達、運用と関わってきた教職員の皆さんに改めて感謝します。